※令和４年度以降入学生用

学校番号	217

令和８年度　福祉科

教科	福祉	科目	社会福祉基礎	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	社会福祉基礎　（実教出版）						
副教材等	社会福祉基礎　学習ノート　（実教出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

○これから地域社会で生活されている人々の「ふだんのくらしのしあわせ」について、みなさんと一緒に考えていきましょう。
・社会で起こっている福祉に関する諸問題について、新聞記事、テレビニュース、ｗｅｂ等から興味や関心の幅を広げましょう。
・卒業後、福祉・介護・医療・保育分野に進みたい人にとって必要とする基礎的な社会福祉に関する知識や技術を学ぶとともに「福祉の心」も育みます。
・夏季休業期間中等を活用して自分の興味や関心のある福祉分野（児童・障がい・高齢者など）についてボランティア実習に参加します。

２　学習の到達目標

福祉の見方・考え方を働かせ、社会福祉の向上に必要な基礎的な資質・能力を育成することを目標とする。
（１）社会福祉について基礎的な知識を理解するとともに、関連する技術を身につける。
（２）社会福祉を展開に関する課題を発見し、倫理観を踏まえ創造的に解決する力を養う。
（３）健全で持続可能な社会の構造をめざして自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・現代社会における社会構造の変容や特色について理解し、社会福祉に関する基礎的な知識を身に付けるとともに、社会福祉の意義や役割を理解している。 ・社会福祉に関する基礎的な技術を身に付け、福祉に関する諸活動に対応することをめざしてその技術を適切に活用している。	・日常生活から派生する社会福祉に関する諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、福祉に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	・社会福祉に関心をもち、福祉社会に向けた課題に主体的に取り組むとともに、社会福祉に関する幅広い視野と福祉観や社会福祉の向上を図る実践的な態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	人間関係とコミュニケーション	○コミュニケーションの基礎 ・コミュニケーションの意義・ 役割 ・援助における人間関係の 形成	a：コミュニケーション活動が持つ意義や役割について理解する。個別的な援助や集団及び家族への援助ならびに地域を基盤とした援助を理解する。 言語的、非言語的コミュニケーションを通しコミュニケーションを取り、利用者との信頼関係が構築できる技術を身につける。 ・日本国憲法が規定している内容、近年の国際的な福祉の考え方、我が国の社会保障と社会福祉制度の関連について理解している。 ・近年の国際的な福祉の考え方、我が国の社会保障と社会福祉制度の関連についての様々な資料や情報を収集し、具体的事例について考察する技能を身につける。 b：コミュニケーション活動が本来持つ意義や役割について考察する。 ・家庭生活の機能や概要、少子高齢化の進行と介護の社会化との関連について思考を深め、我が国の社会保障と社会福祉制度が国民生活にどのように関連しているか具体的事例を通して考えさせる c：コミュニケーション活動について関心を持ち、傾聴、受容、共感の態度を身につける。 ・現代社会の現状に関心をもつ。日本国憲法や社会福祉法が規定している内容、近年の国際的な福祉の考え方、我が国の社会保障と社会福祉制度の関連について関心をもち、諸課題について探究しようとする態度を身につける。	・ノート ・調査研究 ・発表 ・定期考査	・調査研究 発表	・授業観察 調査研究 発表
	社会福祉の理念と意義	○社会福祉の理念と意義 ・生活と福祉 ・社会福祉の理念 ・人間の尊厳と福祉社会の創造				

※令和４年度以降入学生用

2	社会福祉の理念と意義	・〇諸外国における社会福祉 ・イギリスにおける社会福祉の発展（1）救貧から福祉へ ・イギリスにおける社会福祉の発展（2）福祉国家の歩み ・アメリカにおける社会福祉の発展（1） ・アメリカにおける社会福祉の発展（2） ・北ヨーロッパの社会福祉 ースウェーデン・デンマークの動き ・ヨーロッパ大陸諸国の社会保障 ードイツ・フランスなどの動き ・アジアの少子高齢化と社会福祉の課題 〇日本における社会福祉 ・近代社会福祉の誕生・先覚者の活躍 ・「地域福祉」の始まり ・社会事業への着手（第二次世界大戦前） ・戦後の混乱期から福祉三法耐性の確立へ ・高度経済成長時代と社会福祉六法 ・福祉改革とゴールドプラン ・少子化への対応・次世代の育成支援に向かって ・障害者福祉の新しい展開	a：社会福祉思想の歴史的経過について理解し、現在の社会福祉、社会保障を理解する技術を身につける。 ・英国における社会福祉思想の発展や、アメリカ合衆国における社会福祉思想の発展、ヨーロッパにおけるノーマライゼーションなどの社会福祉思想、アジア諸国の社会福祉の現状や課題に関する知識を身につけている。 ・日本における社会福祉の流れを理解し、近年の社会保障、社会福祉を理解、活用する技術を身につける。 ・日本における社会福祉の流れを理解する。近年の社会的現状と、その課題に関する知識を身につける。 b： 諸外国の社会福祉思想の流れを思考し、どのような歴史的経過を経て社会福祉が成立してきたのか考察する能力を身につける。 ・諸外国と日本の状況を対比しつつ、近年における課題を見出し、その解決を目指して思考を深めて、適切に判断する能力を身につける。 c：：英国における社会福祉思想の発展や、アメリカ合衆国における社会福祉思想の発展について、またアジア地域の社会福祉の現状や課題について関心を持っている。 ・日本における社会福祉思想の流れや、近年における社会福祉、社会保障の果たす役割について関心を持ち、積極的に理解しようとする態度を身につけさせる。	・ノート ・調査研究 ・発表 ・定期考査	・調査研究 発表	・授業観察 調査研究 発表

※令和４年度以降入学生用

3		○社会福祉・社会保障制度の意義と役割 ・社会保障制度の意義と役割 ・社会福祉と社会保障制度 ・社会福祉を推進する機関 ○生活支援のための公的扶助 ・生活保護とは ・生活保護の種類と基準 ・生活保護の実施運営体制と最近の動向 ・生活資金の支援制度・ホームレスの自立支援 ○国民生活を支える社会保障制度 ・日本の社会保障制度の枠組み ・健康保険・国民健康保険 ・高齢者医療制度等 ・公的年金制度の体系 ・公的年金の給付 ・雇用保険と労災保険・	a：:社会保障制度、社会保険、公的扶助等について理解した上で、それを活用したり、人に伝える技術を身につける。・日本の社会保障制度、社会保険、公的扶助の意義や概要について、日本国憲法と関連づけて、基礎的・基本的な知識を身につける。近況と社会福祉施策と関連づけて理解する。 b： 社会保障制度、社会保険、公的扶助等について、日本国憲法第 13 条及び第 25 条と関連づけて考察し、近年における課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断する能力を身につける。 c： 日本の社会保障制度を構成する社会保険・公的扶助・社会福祉・公衆衛生など各制度の意義や概要について関心を持ち、これからの社会を担う一員として主体的に取り組む態度を身につける。	・ノート ・調査研究 ・発表 ・定期考査	・調査研究発表	・授業観察 調査研究 発表

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度